

保育科学生の保育者観の形成(続報)

岩井勇児

問題と目的

昨年度の報告においては、実習等の経験を経た本学2年生に、保育者志望の理由、保育者のイメージ等に関する調査を実施して、集計整理し、それに基づいて保育者養成について検討した(岩井勇児、2000)。

それによると、子どもが好きで早くから保育者を志望した学生が多いが、授業、実習などを経て、予想していたよりも、保育者は大変な仕事であると感じている。しかし、その感じている内容は、自分で考えたというよりも教えられたもので、本当のところ、何が大変なのか分かっていないところがある。また、子どもへの関心よりも、自分の評価に関心がある。したがって、保育者としての短所などに対応策がなく、克服するあてもなく、ただ頑張る、努力するなどといって、肩肘はって固くなる傾向がある。

前回の保育者志望の理由、保育者のイメージ等の調査は、志望の理由を自由記述させる、入学した頃の保育者のイメージと変わったところを自由記述させる、という方法であった。そこで、今回は、こうした学生たちの傾向を更に検討するために、前回とは別の視点から資料を採ることとした。

(1) 保育者のイメージ等の数量的検討

前回の調査では、自由記述の資料から、保育者志望の理由、保育者のイメージ等について大まかに見ることはできた。今回はそれに基づいて、もう少し数量的な資料を求めて、再検討したい。

(2) 子どものイメージについて

「保育者のイメージ」という全般的な質問をしたところ、子どもの動きを見ていると面白くてたまらないなど、子ども自体についての記述は、意外に少なかった。

それは、自分が子どもとうまくやっていると、気がなまって、子どもを独立の存在として見るができないためと考えられる。

すなわち、保育者として自分自身がどう評価されるかが関心事であり、その点からしか子どもを見ることができない、という感じがしたのである。

この調査では、子どもについてのイメージを直接質問して、学生のもつ子どものイメージの実態を把握して、それが保育者観の形成とどのように関わるかを検討したい。

そして、評価を気にして固くなるレベルから、もう少し幅広く、これからの時代の変化に対応して柔軟に保育を考えることができる保育者を養成するにはどうしたらよいか、考える資料としたい。

方 法

(1) 調査票の作成

前項で述べたいくつかの視点から調査資料を得るために、次にあげるような質問を作成した。調査票は末尾に添付した。

- ① 入学状況：推薦入試か一般入試かを質問：両方で保育者のイメージ等に違いがあるかどうか検討するため。
- ② 進路状況：保育者志望かどうか。
- ③ 保育者になりたいと思ったきっかけ、理由：前回の自由記述の結果を参考に15項目を用意し、当てはまると思うものを3つ以内選択させた。
- ④ 入学時にくらべた現在の子どものイメージ：前回の自由記述を参考に15項目を用意して、5段階で評定させた。評定値は、「1」そう思わない、「2」少しそう思う、「3」だいたいそう思う、「4」かなりそう思う、「5」強くそう思う、の5段階単尺度とした。
- ⑤ 実習等で体験した子どもの年齢：子どもといっても、実習で担当した年齢に影響を受けるので、その実態を質問した。(回答が複雑になったので、分析から外した。)
- ⑥ 子どものイメージ：子どもを肯定的にとらえているのか、否定的にとらえているのかを見るた

めに、文章完成形式により、「子どもは思っていたよりも」に続けて、簡単な言葉あるいは文章を書かせた。これを、20答法にならって、20問用意した。

（2）調査の実施

- ①調査対象：2年生で教育心理学受講者、167名。
- ②調査時期：2000年11月。
- ③実施：授業時間中に実施。無記名。保育専攻学生が教示を担当。学生が回答しやすいように、保育専攻学生の研究という形態をとった。

結 果

（1）入試と進路

入試と進路に関する資料をまとめたのが、表1である。これによると、推薦入試によるものが60%近く、一般入試によるものが40%である。進路に関しては、保育者志望が92%となって、保育者以外志望は5%にすぎない。なお、保育者志望には、専攻科等進学後に志望する場合も含まれている。

表1 入試と志望

		f	%
入 試	推薦入試	97	58.1
	一般入試	68	40.7
	N A	2	1.2
志 望	保育者	153	91.6
	保育以外	9	5.4
	N A	3	1.8

（2）保育者志望の理由

ここでは、保育者志望者だけに回答を求めた。「保育者になりたいと思ったきっかけ、理由」を、15項目の中から3つ以内選択させた。それを全体の選択率の高い順に並べたのが、表2である。また、推薦入試と一般入試についても比較した。

「全体」の選択率の高い順にみると、「子どもが好きだったから。」が、断然高く84.3%あった。次に、「小さい頃からなんとなく夢だったから。」が55.6%であった。3番目は、「園児の頃、先生に憧れていたから。」で、28.8%である。つまり、「好き」「夢」「憧れ」といった情緒的な項目が、上位を占めている。

「保育者は生きがいを感じる仕事だから。」「自分の特技(ピアノや絵画等)を生かせるから。」「保育者になれる資格が欲しかったから。」「保育者に向いていると思ったから。」など、職業を意識した項目が、これらに続いている。

「安定した職業」「先生に勧められた」「就職口がある」「希望の進路に進めなかった」など、消極的項目は、選択率が極めて低い。

推薦入試と一般入試を比較すると、「夢」「憧れ」「親に勧められた」などでは、推薦入試のほうが高いのに対して、「生きがい」「特技」「資格」体験学習「進路に進めない」などでは、一般入試のほうが高かった。

（3）保育者のイメージ

ここでも、保育者志望者だけに回答を求めた。入学時と比べた現在の保育者のイメージについて、15項目について5段階評定を求めた結果を、評定値の高い順に並べたのが、表3である。各選択肢の選択率を図示したのが、図1である。

「全体」の評定値が最も高いのは、「とても責任ある仕事だ」で、評定値の平均は4.9であり、90%が「強くそう思う」を選択している。

「やりがいある仕事」「奥が深い仕事」「準備が大変」「子どもと遊ぶだけでは勤まらない」「身体的にハード」「精神的にハード」の項目が、評定値4.4～4.0で、かなり高い評定値である。

「子どものことが頭から離れない」「子どもが好きだけでは勤まらない」「新鮮に過ごす事ができる仕事」「厳しくしなければ」「優しいだけでは勤まらない」の項目が、評定値3.7～3.6である。

「保育者といっても立派な人ばかりではない」の評定値は3.0で、ほかの項目よりは低いが、選択率で見れば、「そう思わない」のは3%である。

「直接保育に関係のない雑用が多い」は、評定値1.9である。これは「そう思わない」が48%である。「幻滅するような仕事の内容」は、評定値1.2である。「そう思わない」が83%である。

推薦入試と一般入試を比較してみても、ほとんど差が見られない。

全体としてみれば、ここにあげた項目は、評定値の大小はあるが、「雑用が多い」「幻滅する仕事」以外は、おおむね肯定されたといえるだろう。

表2 保育者志望の理由

項 目	全体	推薦	一般
	n=153	88	64
1. 子どもが好きだったから。	84.3	84.1	85.9
5. 小さい頃からなんとなく夢だったから。	55.6	59.1	51.6
3. 園児の頃、先生に憧れていたから。	28.8	34.1	21.9
12. 保育者は生きがいを感じる仕事だから。	24.8	23.9	26.6
7. 自分の特技(ピアノや絵画等)を生かせるから。	18.3	17.0	20.3
11. 保育者になれる資格が欲しかったから。	14.4	10.2	20.3
8. 保育者に向いていると思ったから。	12.4	12.5	10.9
2. 身近な子どもと遊んだ経験を生かせるから。	11.8	13.6	9.4
4. 母親や姉など身近に保育者がいたから。	11.8	12.5	10.9
9. 親に勧められたから。	9.2	11.4	6.3
6. 体験学習で保育者になりたいと思ったから。	8.5	5.7	12.5
14. 保育者は安定した職業だから。	2.6	2.3	3.1
10. 学校の先生に勧められたから。	2.0	1.1	3.1
13. 保育者は就職口のある職業だから。	2.0	1.1	3.1
15. 希望の進路に進めなかったから。	2.0	0.0	4.7

注：1) 数値は15項目から3項目以内選択の選択率

2) 全体は、保育者志望者、無回答があったため推薦と一般の合計と一致しない。

表3 保育者のイメージ

保育者は思っていたよりも	全体 153		推薦 88		一般 64	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD
5. とても責任ある仕事だ。	4.9	0.4	4.9	0.4	4.9	0.4
14. やりがいがある仕事である。	4.4	0.9	4.3	0.8	4.5	0.8
9. なかなか奥が深い仕事である。	4.4	0.8	4.4	0.8	4.4	0.9
6. 保育のための準備が大変である。	4.3	0.8	4.3	0.9	4.3	0.7
2. 子どもと遊ぶだけでは勤まらない。	4.3	0.8	4.2	0.8	4.3	0.8
11. 身体的にハードな仕事である。	4.1	0.9	4.1	1.0	4.2	0.9
10. 精神的にハードな仕事である。	4.0	1.1	3.9	1.1	4.0	1.0
13. 子どものことが常に頭から離れない仕事である。	3.7	1.1	3.7	1.1	3.9	1.1
1. 子どもが好きだけでは勤まらない。	3.7	1.1	3.8	1.0	3.6	1.2
15. 日々を新鮮に過ごすことができる仕事である。	3.7	1.1	3.6	1.1	3.8	1.1
4. 必要に応じて厳しくしなければならない。	3.6	1.0	3.6	1.0	3.7	1.1
3. 優しいだけでは勤まらない。	3.6	1.1	3.6	1.1	3.7	1.1
12. 保育者といっても立派な人ばかりではない。	3.0	1.2	2.8	1.1	3.1	1.2
7. 直接保育に関係のない雑用が多い。	1.9	1.0	1.8	1.0	1.9	1.1
8. 幻滅するような仕事の内容である。	1.2	0.5	1.2	0.5	1.2	0.5

注：1) 評定値は、「1」そう思わない、「3」少しそう思う、「3」だいぶそう思う、「4」かなりそう思う、「5」強くそう思う。

2) 回答数は表2と同じ。

3) 「1」そうは思わない、の割合でみると、項目8は83%、項目7は48%。

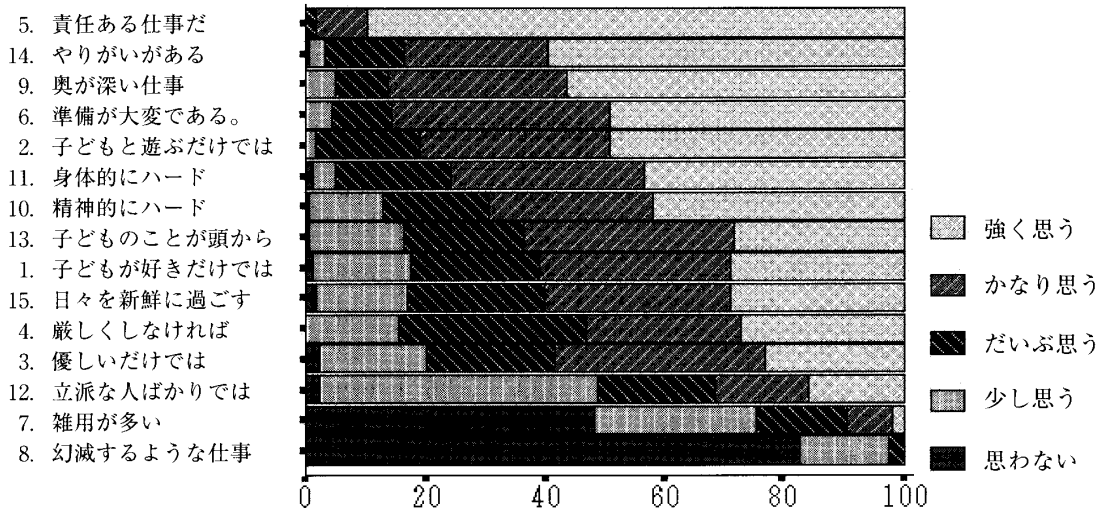


図1 「子どもは思ったよりも」選択率

(4) 「子どもは思ったよりも」の回答の分類

①分類の基準

a. 肯定的回答と否定的回答

最初に、全回答について、子どもに対して肯定的回答、どちらともいえない回答、否定的回答、という分類を試みた。しかし、一語あるいは極めて短い文が多い回答から、こうした判断をするのは、かなり難しかった。そこで、明らかに否定的な回答と、否定的ではない回答に分けるだけにして、前者を「否定的」後者を「肯定的」と呼ぶことにした。したがって、ここでの「肯定的」は、否定的ではないもの、という意味である。

b. 内容の分類

回答の一覧表を作成して、通覧して、内容的に次の4つに大まかに分けてみた。

知的能力：子どもの頭の良さ、知識、記憶力など。

行 動：子どものすること為すこと。

性 質：子どもの性質、意志、情緒など。

人間関係：大人との関係、子ども同士のことなど。

②全体の傾向

上記の分類基準によって、全回答を分類した。表4は、各内容ごとに肯定的、否定的な回答の割合を求めたものであり、表5は、肯定的、否定的ごとに回答の割合を求めたものである。

表4の計をみると、全体の76.5%が肯定的であり、否定的は23.5%である。これを内容別に見る

表4 「子どもは思ったよりも」の分類（肯定・否定）

	肯定的		否定的		計	
	f	%	f	%	f	%
性 質	278	64.1	156	35.9	434	100
行 動	199	70.1	85	29.9	284	100
知的能力	254	99.2	2	0.8	256	100
人間関係	176	80.7	42	19.3	218	100
その他	39	86.7	6	13.3	45	100
計	946	76.5	291	23.5	1237	100

表5 「子どもは思ったよりも」の分類（内容）

	肯定的		否定的		計	
	f	%	f	%	f	%
性 質	278	29.4	156	53.6	434	35.1
行 動	199	21.0	85	29.2	284	23.0
知的能力	254	26.8	2	0.7	256	20.7
人間関係	176	18.6	42	14.4	218	17.6
その他	39	4.1	6	2.1	45	3.6
計	946	100	291	100	1237	100

と、性質については肯定的が64%、否定的が36%であり、知的能力では99%が肯定的である。

表5をみると、肯定的のなかでは、性質と知的能力の割合が高く、否定的のなかでは、性質が54%と過半数を占めている。「計」で見ると、性質の占める割合がもっとも多く35%、行動が23%、知的能力が21%、人間関係が18%の順である。

なお、回答欄は20あるが、記述数はそれほど多くはなく、平均7.4であった。分布は逆J字型で

あった。回答欄1番から5番までの回答と6番目以降の回答について、肯定的と否定的の割合を示したのが、表6である。

表6 回答順位による肯定的否定的の割合

	肯定的		否定的		計	
	f	%	f	%	f	%
5番目まで	625	81.6	141	18.4	766	100
6番目以降	321	68.2	150	31.8	471	100
計	946	76.5	291	23.5	1237	100

これを見ると、初めのほうよりも後半のほうが否定的回答の割合が多くなっている。

③性質について

性質についての記述を、さらに分類して整理した。肯定的が表7、否定的が表8である。

表7 性質(肯定的)

記述内容	f
かわいい・おもしろい	62
しっかりしている・大人だ	54
素直・純粋	47
やさしい・思いやりがある	38
繊細・感受性豊か	16
強い・負けず嫌い	14
感性・感情表現豊か	8
奥が深い	7
意志・個性が強い	5
その他	27
計	278

これを見ると、「かわいい・おもしろい」が最も多く、「しっかりしている・大人だ」「素直・純粋」「やさしい・思いやりがある」がこれに続いている。以下、度数が10以上のそれぞれについて、記述例をあげておこう。同じ記述が多かったのが目立つ。なお、末尾の()内の数値は度数を表す。

- a. かわいい・おもしろい
 - ・かわいい・もっとかわいいなど(45)
 - ・おもしろい(9)
 - ・よい子・魅力的・楽しいなど(8)
- b. しっかりしている・大人だ
 - ・しっかりしている・しっかりしていた(22)
 - ・大人である・大人っぽいなど(19)

- ・我慢強い(4)
- ・たくましい・努力するなど(9)
- c. 素直・純粋
 - ・素直である(31)
 - ・純粋である(12)
 - ・正直・真っ白な心など(4)
- d. やさしい・思いやりがある
 - ・やさしい・優しかった(30)
 - ・思いやりがある(8)
- e. 繊細・感受性豊か
 - ・繊細・デリケート(9)
 - ・感受性豊か(4)
 - ・良く気がつく(3)
- f. 強い・負けず嫌い
 - ・強い・強かった(8)
 - ・負けず嫌い(5)
 - ・恐いもの知らず(1)

表8 性質(否定的)

記述内容	f
難しい・わからない	32
傷つきやすい	16
わがまま・自己中心的	15
頑固・しつこい	15
かわいくない・生意気	13
ませている	13
気分が変わる	11
恐い・残酷	9
甘える	8
単純である	6
現実的である	4
その他	12
計	156

- a. 難しい・わからない
 - ・難しい・何を考えているのかわからないなど(17)
 - ・複雑・大変・なぞだなど(15)
- b. 傷つきやすい
 - ・傷つきやすい(7)
 - ・さびしがりや・さみしがりや(7)
 - ・強がるが実は弱い・不安になる(2)
- c. 頑固・しつこい
 - ・頑固である(9)
 - ・しつこい(5)
 - ・我が強い(1)
- d. わがまま・自己中心的
 - ・わがまま(8)
 - ・自己中心的(5)
 - ・自分にこだわる・やんちゃ(2)

- e. かわいくない・生意気
 - ・かわいくない・にくたらしい（7）
 - ・生意気・素直でないなど（6）
- f. ませている
 - ・ませている（9）
 - ・ずるがしこい・大人じみている（4）
- g. 気分が変わる
 - ・気分が変わる・きまぐれ（6）
 - ・喜怒哀楽が激しい・好き嫌いが激しい（5）

④行動について

行動について、さらに分類した。肯定的が表9であり、否定的が表10である。

表9 行動（肯定的）

記述内容	f
元気・動く・体力がある	72
よく遊ぶ	43
いろいろ自分でできる	37
話ができる	13
よく食べる	7
大きい・重たい	6
泣かない	5
その他	16
計	199

これを見ると、「元気・動く・体力がある」が断然多く、それについて「よく遊ぶ」「いろいろ自分でできる」が多い。

- a. 元気・動く・体力がある
 - ・元気がある（25）
 - ・よく動く（13）
 - ・体力がある（9）
 - ・活発（8）
 - ・足が速い・走るのが速い（8）
 - ・力が強い（6）
 - ・行動的（3）
- b. よく遊ぶ
 - ・よく遊ぶ・遊び上手など（26）
 - ・ブロック・手遊び・外で遊ぶ・絵本など（17）
- c. いろいろ自分でできる
 - ・自分のことは自分でできる（23）
 - ・色々なことができる・何でもできるなど（14）
- d. 話ができる
 - ・色々話してくれる・良くしゃべるなど（8）
 - ・会話ができる・人の話を聞くなど（5）

表10 行動（否定的）

記述内容	f
喧嘩する・泣く・怒る	26
危険なことをする・怪我する	12
いろいろできない	10
遊ばない	10
言葉が乱暴・口が悪い	9
食べない	6
その他	12
計	85

これを見ると、けんか、泣く、怪我、など、抑えが効かないことと、できない、食べないなど、思うように動かないことがあげられている。

- a. 喧嘩する・泣く・怒る
 - ・よくケンカをする・けんかが多いなど（11）
 - ・すぐ泣く・泣きやまない（8）
 - ・怒る・すねる・機嫌がなおらないなど（7）
- b. 危険なことをする・怪我する
 - ・危険なことをする・何をするかわからない（7）
 - ・怪我する・転ぶ（5）
- c. いろいろできない
 - ・できないことが多い・動いてくれない（4）
 - ・自分のことができないなど（6）
- d. 遊ばない
 - ・外で遊ばない（5）
 - ・遊びに集中できない・遊びが偏っているなど（5）

⑤知的能力について

知的能力について分類したのが表11である。ここでは、ほとんどが肯定的回答であり、否定的回答は2つだけである。

肯定的では、子どもの知的能力が意外にあることを記述している。

表11 知的能力（肯定的）

記述内容	f
かしこい・想像力がある	69
知っている・記憶力がいい	69
いろいろなことを考えている	32
鋭い・敏感	31
物事をよく見ている	29
いろいろなことに興味をもつ	13
G その他	11
計	254

- a. かしこい・想像力がある
 - ・かしこい (23)
 - ・想像力がある (14)
 - ・発想が豊か (12)
 - ・頭がいい (11)
 - ・創造力がある (4)
 - ・理解力がある
 - ・いろいろな能力があるなど (4)
- b. 知っている・記憶力がいい
 - ・色々なことを知っている・知識が豊富など (47)
 - ・記憶力がある・物覚えがよいなど (19)
 - ・イメージが広い・言葉を知っているなど (3)
- c. いろいろなことを考えている
 - ・色々考えている・よく考えているなど (30)
 - ・善悪がわかる・考えて行動する (2)
- d. 鋭い・敏感
 - ・鋭い・するどいことをいうなど (20)
 - ・敏感である・物事に敏感など (11)
- e. 物事をよく見ている
 - ・物事をよく見ている・周りを見ているなど (29)
- f. いろいろなことに興味をもつ
 - ・いろいろなことに興味を持つ (5)
 - ・好奇心が旺盛・新しいことが好き (5)
 - ・自然が好き・自然に興味がある (3)

- b. 働きかけてくる
 - ・人なつっこい・人見知りしない (8)
 - ・話しかけてくる・スキンシップを求める (7)
 - ・大人を信頼している (6)
 - ・元気をくれる・感情を出してくれるなど (10)
- c. 仲間を大切にする
 - ・仲間意識が強い・仲がよい (8)
 - ・友達をいたわる・友達思いなど (8)
- d. 自己主張する
 - ・自己主張する・自分の考えを貫く (8)
 - ・自分の考えをもっているなど (5)
- e. 周りに気をつかう
 - ・周りに気をつかうなど (7)
 - ・人のことを考える・支えるなど (5)

表13 人間関係(否定的)

記述内容	f
人の目を気にする・試す	11
言うことを聞かない	10
接しにくい	8
その他	13
計	42

⑥人間関係について

人間関係について分類した。肯定的が表12、否定的が表13である。

ここでは、大人をよく見ていることがもっとも多い。

表12 人間関係(肯定的)

記述内容	f
大人をよく見ている	81
働きかけてくる	36
仲間を大切にする	16
自己主張する	13
周りに気を遣う	12
言うことを聞く	5
世話をする	4
その他	9
計	176

- a. 大人をよく見ている
 - ・大人(保育者)のことをよく見ているなど (61)
 - ・大人の気持ちを察しているなど (18)
 - ・大人のマネをするなど (2)

- a. 人の目を気にする
 - ・人の目を気にする・顔をうかがう (7)
 - ・大人を試す (4)
- b. 言うことを聞かない
 - ・言うことを聞かない (10)

考 察

(1) 保育者志望の理由について

保育者志望の理由の結果からみると、本学学生は、子どもが好きで、小さい頃から保育者を夢見て、園児の頃の先生に憧れ、保育者は生きがいのある仕事、と思って入学してきた学生が多いのである。しかも、表1をみると、90%強の学生が保育者を志望しており、実際に、そのほとんどが保育者として就職している。

かつて、愛知教育大学の学生に、愛知教育大学への志望の理由や志望の決定について、調査をしたことがあったが、教員志望の割合もこれほど高くはなかったし、志望の理由も、これほど純粋ではなかった(岩井勇児、1979-1982)。

なんとなく偏差値だけで、目的がはっきりしないままに志望校を選ぶ傾向があるなかで、ともか

く、保育者を志望して入学してくる本学の学生は、恵まれている。そして、これは保育者の資質として大事なことである。

しかし、視点をかえてみると、純粹ではあるが、それは、好き、夢、憧れ、など極めて情緒的なものであって、職業としての保育者の実態について、必ずしも情報が十分でないままに、自分なりの理想像だけで志望し、入学してきた面がある。

（2）保育者のイメージについて

保育者志望の理由を、昨年度の調査の自由記述の回答と合わせて考えてみると、「保育者は、子どもが好きで、子どもと遊び、子どもの世話をし、適当に教えれば、勤まる」ぐらいの軽い気持ちでいたのが、授業や実習を通して、そんなことでは勤まらない、大変な仕事だ、と思うようになった様子がうかがえる。前回の自由記述から読みとれることを、今回の調査で数量的にも裏付けることができた。

入学時のような、のほほんとした保育者のイメージでは勤まらない、大変な仕事である、というイメージを形成するようになることは、保育者養成の一段階をしては、必要なことであろう。

しかし、そこにとどまっているようでは、問題である。たとえば、「とても責任ある仕事だ。」の項目では、90%が「強くそう思う」を選択しているが、前回の自由記述からみても、責任と言う言葉の内容についての具体像はないようである。他の項目についても、同様のことが言える。したがって、保育者は責任があるといっても、具体的にどうするのかわからず、ただ固くなっているだけの状態、と解釈できる。

このような固いイメージを形成する背景に、本学学生のまじめさがある。このまじめさは、長所として、それなりに努力し、頑張っていく力となっているのであるが、一方では、自分を固定化してしまい、柔軟性がなく、状況に応じて自分を変えていくことを困難にしているような気がする。

（3）「子どもは思ったよりも」の回答について

①肯定的子ども観

この調査票を作成する段階では、保育者のイメージが固くなるのは、実習等における子ども体

験によって、否定的な子ども観を形成しているのかもしれない、といった予想があった。

しかし、表4に示したように、全体として76.5%は、肯定的な記述であり、否定的な記述は23.5%だけで、肯定的のほうが多かった。

表6に示したように、5番目までの記述と6番目以降の記述とを比べると、5番目までのほうが肯定的割合が高いことがみられた。まず、肯定的なことが浮かんで、沢山書くうちに否定的なことも出てくることは、意識としてそれだけ子どもを肯定的に見たい、と思っていることが、現れているといえよう。

全体として、子どもを肯定的に見るということは、保育者の資質として、大事なことであり、望ましいことである。また、否定的な面もある程度見ていることは、子ども観に幅を持たせる上で役立つことである。

しかし、こうした子どもたちを保育者としてどう受け容れ、どのように働きかけていくつもりか、ということと結びつけてこそ、子ども観の意味がでてくるのである。

②発達する子どもという視点が弱い

肯定的な記述を見ていくと、子どもは、良い性質を沢山持っており、よく動いて色々なことができ、頭が良く物知りであり、人のことをよく見ている、といったように、予想よりもはるかにいろいろな力を備えている、とみていることがわかる。

一方、否定的な記述を見ていくと、子どもは、扱いにくく、抑えにくく、言うことを聞かないなど、思うようにならない、と見ていることが分かる。

これらのことと、保育者のイメージの調査の結果と結び合わせて、考えてみると、子どもを肯定的に見るにせよ、否定的に見るにせよ、子どもは自分とは独立に発達する存在である、といった発達観がないように思われる。

子どもとの接触が、実習という短期間の経験しかないこと、「子どもは思ったよりも」という言葉で文章完成方式で、回答を求めたこと、などから、発達という視点がうかがえる言葉が見られないのも、やむを得ないことかもしれない。

しかし、これだけの記述を集めても、子どもは自分なりに発達していくことを思わせるような記述は、ほとんど見られなかった。

③自分を脅かす存在としての子ども

前項のような視点で、これらの記述を読んでいくと、子どもの姿を独立に見るというよりも、自分との関わりで見ている、といえよう。

たとえば、人間関係として分類したもので、子ども同士の間関係に関する記述は、それほど多くはないのに対して、「大人をよく見ている」が圧倒的に多い。そして、この大人とは自分たち、あるいは保育者のことである。

大人をよく見ている、ということは、大人の良いところも悪いところも見ている、ということである。それについて、学生たちの話を聞くと、だから保育者は子どもに見られてもよい行動をするように気をつけなければならない、という方向になっていく。

こうした構えだと、子どもの性質、行動、知的能力などで、子どもが優れた力を備えていることも、だから保育者はしっかりしていなければならない、ということに結びつき、固くなってしまいうような気がする。

子どもが優れた力をもっているのだから、保育者が優れていなくても、子どもは伸びていく、あるいは、保育者の良いところ悪いところを見せても、それを糧にして子どもは育っていく、と考えれば、もう少し余裕ができるはずである。

授業内容に興味を持つよりも、自分がどう評価されるかのほうを気にする日頃の学生たちの行動からみると、保育者は大変な仕事、と思うのは、子どもが思うように動いてくれないという否定的なことだけでなく、肯定的に思う子どものさまざまな力も、その一因になっているようである。

というのは、子どもが自分よりも有能な行動を見せるとき、自分も保育者として、子どもに侮られないだけの力量を備えるべく、頑張ろう、などと構えてしまい、固くなってしまふからだ。

子どもは、保育者とは独立に発達していく、という視点がないのに、「とても責任ある仕事だ」などと思っていると、子どもが、いつの間にか、自分を脅かす存在になってしまうのである。

④子どもがおもしろいを再び

子どもが好きだから、保育者を志望した、と言うときの「好き」のなかには、子どもと一緒に過

ごすことは、おもしろい、楽しい、と言った気持ちが含まれていたと思う。

ところが、これだけの記述のなかで、「おもしろい」は9つ、「楽しい」は1つしかなかった。おもしろい、楽しいなど、甘いことを言っていたのでは動まらない、と教育されたのか、あるいは、実習と言う短期間では、そこまで感じる余裕がなかったのか、いささか、期待はずれであった。

どんな職業でも、その職業の本質的なところが、おもしろい、楽しい、ことが大事だと思う。特に保育の仕事は、子どもがおもしろく、楽しいことが基本である。

確かに、子どもと遊んでいればいい、と言ったのんきな保育者観のままでは困るが、せっかく学生がもっていた、子どもはおもしろい、楽しい、といった子ども観を、否定したままでは、問題である。保育者養成の一段階では、こうした否定を経験させることは大事だと思うが、最終的には、子どもがおもしろく、楽しく、子どもが好きならば、保育者として多少の欠点はあっても、保育者は勤まる、という自信をもたせてやりたい。

そのためには、子どもの発達する力を実感できることが必要だ。子どもの発達の姿が見えてくれば、肯定的であれ、否定的であれ、子どものすべての行動が、子どもの発達とつながって見えて、おもしろく、楽しくなるはずである。

それと共に、自分の評価にこだわらずに、状況に柔軟に対応できる自我が育っていれば、子どもがおもしろく、楽しくなるはずである。

そう考えると、保育者養成として、子どもの発達が見える学力をつけさせることと、自我の成熟を促すことが重要である。

付記：調査の実施、集計整理等に、専攻科保育専攻卒業生佐尾久美子、遠山綾乃、学生墨さおり、湯浅絵津子の協力を得た。記して感謝したい。

文 献

岩井勇児 1979～1984 愛知教育大学学生の進路意識：I～V 愛知教育大学研究報告(教育学) 28～34.

岩井勇児 2000 保育科学生の保育者観の形成 名古屋柳城短期大学研究紀要 22、137-149.

—資料—

調査EVT0011 調査年月日 2000年11月28日 名古屋柳城短期大学専攻科保育専攻

この調査は、保育専攻学生の研究のためのものです。ここでは、保育者について、あなたが今考えていることを知りたいのです。思ったとおりのままに教えてください。

I はじめに、次の事項に回答してください。

- (1) 入学したのは、 1. 推薦入試 2. 一般入試
 (2) 進路は、 1 .保育者志望（内定、進学後の志望も含む）
 2 .保育者以外（a.一般企業 b.介護関係 c.その他）

II (1)保育者志望の人は、次の「保育者になりたいと思ったきっかけ、理由」の中から、あてはまると思うものを3つ選んで、数字を○で囲んでください。（3つない人は、3つ以内でもよいです）

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1. 子どもが好きだったから。 | 9. 親に勧められたから。 |
| 2. 身近な子どもと遊んだ経験を生かせるから。 | 10. 学校の先生に勧められたから。 |
| 3. 園児の頃、先生に憧れていたから。 | 11. 保育者になれる資格が欲しかったから。 |
| 4. 母親や姉など身近に保育者がいたから。 | 12. 保育者は生きがいを感じる仕事だから。 |
| 5. 小さい頃からなんとなく夢だったから。 | 13. 保育者は就職口のある職業だから。 |
| 6. 体験学習で保育者になりたいと思ったから。 | 14. 保育者は安定した職業だから。 |
| 7. 自分の特技(ピアノや絵画等)を生かせるから。 | 15. 希望の進路に進めなかったから。 |
| 8. 保育者に向いていると思ったから。 | |

(2)保育者以外を選んだ人は、その理由など、具体的に書いてください。

III 現在の保育者のイメージについて、次の質問の当てはまる数字を○で囲んでください。

保育者は入学した頃に思っていたよりも

	そう 思わない	少し そう 思う	だい ぶ そう 思う	かなり そう 思う	強く そう 思う
1. 子どもが好きだけでは勤まらない。 -----	1	2	3	4	5
2. 子どもと遊ぶだけでは勤まらない。 -----	1	2	3	4	5
3. 優しいだけでは勤まらない。 -----	1	2	3	4	5
4. 必要に応じて厳しくしなければならない。 -----	1	2	3	4	5
5. とても責任ある仕事だ。 -----	1	2	3	4	5
6. 保育のための準備が大変である。 -----	1	2	3	4	5
7. 直接保育に関係のない雑用が多い。 -----	1	2	3	4	5
8. 幻滅するような仕事の内容である。 -----	1	2	3	4	5
9. なかなか奥が深い仕事である。 -----	1	2	3	4	5
10. 精神的にハードな仕事である。 -----	1	2	3	4	5
11. 身体的にハードな仕事である。 -----	1	2	3	4	5
12. 保育者といっても立派な人ばかりではない。 -----	1	2	3	4	5
13. 子どものことが常に頭から離れない仕事である。 -----	1	2	3	4	5
14. やりがいがある仕事である。 -----	1	2	3	4	5
15. 日々を新鮮に過ごすことができる仕事である。 -----	1	2	3	4	5

IV (1) 実習等では、主として何歳ぐらいの子どもを体験しましたか。(複数回答可)

- ①保育園実習 1. 未満児 2. 年少 3. 年中 4. 年長 5. 縦割り
 ②幼稚園実習Ⅰ 1. 年少 2. 年中 3. 年長 4. 縦割り
 ③幼稚園実習Ⅱ 1. 年少 2. 年中 3. 年長 4. 縦割り

(2)入学後の子ども体験をもとに、以下の「子どもは思っていたよりも」に続けて、思いつく簡単な言葉あるいは文を、どんなことでもよいから、いくつでも、思いつくだけ記入してください。

1. 子どもは思っていたよりも

2. 子どもは思っていたよりも

3. 子どもは思っていたよりも

4. 子どもは思っていたよりも

5. 子どもは思っていたよりも

6. 子どもは思っていたよりも

7. 子どもは思っていたよりも

8. 子どもは思っていたよりも

9. 子どもは思っていたよりも

10. 子どもは思っていたよりも

11. 子どもは思っていたよりも

12. 子どもは思っていたよりも

13. 子どもは思っていたよりも

14. 子どもは思っていたよりも

15. 子どもは思っていたよりも

16. 子どもは思っていたよりも

17. 子どもは思っていたよりも

18. 子どもは思っていたよりも

19. 子どもは思っていたよりも

20. 子どもは思っていたよりも

ご協力有り難うございました。

--	--	--	--	--	--	--	--

How the Students Constructed Their View of Kindergarten Teacher (continued)

Yuji IWAI*

本学学生に、保育者志望の理由、保育者のイメージの調査を行った。また、子どものイメージについて文章完成形式の記述を求めて分類整理した。子どもが好きで小さいころから保育者を志望した学生が多いが、授業、実習などを経て、予想していたよりも保育者は大変な仕事であると感じている学生が多いことは、昨年度の調査と同様であった。

子どもについては、全体の76%は肯定的なイメージであった。記述内容を、性質、行動、知的能力、人間関係の4つに分類して、記述数の割合を見ると、性質が35%、行動が23%、知的能力が21%、人間関係が18%であった。また、各内容について否定的なイメージの割合についてみると、性質が36%、行動が30%、知的能力が1%、人間関係が19%であった。

これらの記述を見ると、子どもを保育者とは独立に発達する存在と見ることができないうで、自分とのかかわりだけで見ている傾向があった。そして、子どもの存在が、自分を脅かすものとなってしまう、保育者として固く構えてしまうようであった。保育者養成としては、子どもが好きならば勤まるという自信を、再び持たせてやりたい。

キーワード：保育者養成、保育者志望の理由、保育者のイメージ、子どものイメージ